



校長 市原俊司

毎日の学習を大切にしていこう

夏休みが終わり、今日から二学期が始まりました。笑顔で元気な子供たちの様子を見て、教職員一同うれしい気持ちでいっぱいです。

まだ、暑い日が続くようですが、子供たちが十分、学習に集中し、積極的な態度で多くのことを学べるように指導や支援をしていきます。

今から千年以上も前の中国の詩人が作った詩を紹介します。

「少年易老学難成 一寸光陰不可輕 未覺池塘春草夢 階前梧葉已秋声」

この詩は、「若者はすぐに年をとってしまうものだが、学問はなかなか成就しがたい。池のほとりの堀の春草の上で楽しく遊ぶ夢がまだ覚めないうちに、階段の前の桐の葉はもう秋風に寂しく音を立てる季節になってしまう」という意味を表しています。

身の回りのものが急速に進歩し、発展を遂げてきた現代に生まれ育ってきた私たちは、ものの便利さや効率のよさなどを当然のものとして生活をしています。そのため、まわりの便利さに頼り切ってしまい、あまり自分で考えたり、工夫したりすることが少なくなっているかも知れません。

昔の子供たちは、道路にある石や牛乳のふたなど身近にあるなんでもないものでも工夫して遊ぶことができました。テレビゲームもない時代、みんなで集まって互いに工夫しなければ遊べない時代でもありました。

昔の生活の様子は確かに今と比べると不便に感じるが多かったかもしれません。しかし、その分、自分で考えたり、友達と協力したりする機会も多く、忍耐強さや感性も豊かだったのではないのでしょうか。

人としてよりよい生き方を求めるためには、先人がどんなことを考え、何を大切に生きてきたか、何を伝えてきたのか、を真剣に学ぶことが大事なことでないのでしょうか。

どんな時代になろうとも、人が身につける学問や技術には、それに応じた時間や努力が必要です。学習することに楽な近道はなかなかないようです。子供たちが真剣に学習に取り組み、自分の生きる力を伸ばしていけるように、今学期も指導や支援を行っていきます。